

大学の世界展開力強化事業  
(平成23年度採択)  
平成27年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会  
平成27年9月4日(金)  
独立行政法人 日本学術振興会

## ■フォローアップの目的

平成25年度に実施した中間評価において、大学の世界展開力強化事業プログラム委員会評価部会から採択大学の中間評価後の取組状況について引き続き確認するよう指摘がなされたことを踏まえ、「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップを行う。

参考：フォローアップの対象事業（平成23年度大学の世界展開力強化事業公募要領（抜粋））

【タイプA：キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

- I) 日中韓の三カ国における大学間で1つのコンソーシアムを形成し、単位の相互認定や成績管理、学位授与等を統一的行う交流プログラムを実施する事業（日中韓のトライアングル交流事業）（10件）
- II) 上記「I」に該当しないもので、中国、韓国又は東南アジア諸国連合（ASEAN）の国々における大学との単位の相互認定や成績管理、学位授与等を統一的行う交流プログラムを実施する事業（3件）

【タイプB：米国大学等との協働教育の創成支援】

- I) 米国における大学等との協働教育を行う交流プログラムを実施する事業（7件）
- II) 米国以外の欧州、豪州等における大学等との協働教育を行う交流プログラムを実施する事業（5件）

## ■ スケジュール

- ・平成27年5月21日  
フォローアップ実施について文部科学省から各採択大学に通知
- ・平成27年7月7日～7月9日  
各採択大学からフォローアップ調査票の提出
- ・平成27年9月4日  
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・平成27年9月  
フォローアップ結果の公表

## ■フォローアップの総括

平成23年度に採択された25件のプログラムについて、採択時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成23年度から平成26年度までの実績（派遣・受入学生数）等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれのプログラムの目的や特色等を反映した取組が行われ、一部には当初計画を上回る成果が出ている事例もある。特に、大学や参加した学生の広報活動により、本事業が広く一般に認識され、更に新たな学生の参加が見込まれるなどの事例が挙げられる。一方で、新たな課題や問題点も浮上しており、各採択大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生数の実績を見ると、全体では派遣・受入共に実績が目標を上回っているが、平成26年度については受入が目標を下回ることとなった。しかし同年度も含めて単位取得を伴う学生数は堅調に推移しており、事業の最終年度（平成27年度）に向けて、交流内容の発展が見込まれる。

今後も、本事業の趣旨に則り、各プログラムが更に充実し、成果を挙げられることを期待する。

## 1. 取組の進捗状況

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）平成27年度フォローアップ調査票（以下「調査票」という。）による各採択大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理を行った。

- ①交流プログラムの枠組み
- ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

# ①交流プログラムの枠組み

## タイプA

(A-I 東京大学)

各大学との間でダブル・ディグリーの派遣と受入の両方を行い、大学院レベルでの高水準の学位プログラムを作る土台を構築することができた。また、日中韓の人的交流の促進のため、学生のみならず教職員による相互訪問を重ねることにより、単に学位プログラムの実施にとどまらず、人と人との信頼関係に基づいた協力関係を築く段階に近づくことができた。

(A-I 立命館大学)

本事業の常設化について平成25年度から三大学で議論を重ね、平成26年7月には合意書を締結し、平成27年4月には枠組みを決定した。また、本学では中韓いずれかの言語の既習者を対象にした新AO入試を設けた。

(A-II 早稲田大学)

平成26年度の合同教職員会議において、各要素の進捗状況及び助成期間終了後の継続の可能性について海外連携大学と協議し、補助期間終了後も大学間で共同教育・研究を継続していくための運営母体として運営委員会を設立することについて合意した。これにより大学間で行ってきた共同教育をより持続的な形で学生に提供していくための基盤を整備することができた。

(A-II ○大阪大学、広島大学、名桜大学、長崎大学)

平成27年度から大阪大学大学院国際公共政策研究科とデ・ラ・サール大学文学部大学院はダブルディグリープログラムを開始した。現在1名のフィリピン人学生を大阪大学で受入中である。

## タイプB

(B-I 慶應義塾大学)

第1期の派遣学生に対しては、本プログラムサーティフィケート授与のための審査会を平成26年11月に開催した。外部専門家を交えた審査員5名が、学生の成果発表と質疑応答を通じ、本プログラム達成度を審査した。全員プログラム修了の評価基準を満たし、各人の成長が認められた。外部専門家の指摘により、今後は異文化経験よりも海外連携大学で学んだ教育・研究面に焦点をあてた内容を発表させることとした。

(B-I 早稲田大学)

日米共同ゼミおよび学生フォーラムを平成26年9月より開始した。2つのゼミ及びアジアにおけるグローバルな問題定義と提案を学生自ら企画し実践する学生フォーラムにおいて、日米の学生は共に異文化間の相互理解と相互協力を体験的に学んでいる。計画通り充実したカリキュラムとなっており、学生達は切磋琢磨しながらカリキュラムを履修し、この一年で日米の学生間および他期生間の縦横に密なコミュニティが形成された。また、平成27年6月には、本学で実施した合同推進会議と同日に、学生フォーラムの成果発表会を行い、本事業関係者、外部関係者、本学学生及び会議に出席した各大学の担当教職員に向けて、一年間の研究の成果を発表した。

(B-I 立命館アジア太平洋大学)

入学前留学プログラムの参加者の多くが、後続プログラムのグローバル・コミュニケーション・プログラム/Southeast Asian Studiesプログラムや交換留学に応募・参加している。また、入学前留学は応募者の増加からその需要が認められ、これまでの本事業の応用と発展の形として、平成26年度より同様のプログラムを他大学でも開始している。

また、平成27年5月には、NAFSAにて、eポートフォリオを運用した2大学間の協働教育プログラムのベストプラクティスとして国際発表を実施した。

## ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

### タイプA

(A-I 名古屋大学)

平成26年度には「第2回キャンパス・アジア学生シンポジウム」及び「第2回同窓会総会」を開催し、学生の学習成果を内外に向けて発信するとともに、担当教職員がその成果を直に見ることによって、本プログラムの教育内容や在り方を省みる機会となっている。また、平成26年度は2期生の学習成果をまとめた日中韓共同報告書を作成し、そこで学生の学習成果について各校の教員が評価を行った。これらの学習成果の発表とそれに対する評価活動を教員自身が行うことで、教育内容の質の保証へと繋げている。さらに、日本においては、派遣学生に対しインタビューも実施しており、学生がプログラムで学んだことやその意義、今後の将来へどう生かすか等について尋ね、教育効果を検証している。

(A-I 東京工業大学)

平成26年度のサマースクールから共通科目を立て、単位認定を容易にした。同時に、海外連携大学とのダブルディグリーについて関係者間で具体的な検討を重ね、事業期間内での実施に向けて準備を進めた。

(A-I ○名古屋大学、東北大学)

平成23年度～26年度に日本に3ヶ月以上滞在した留学生は39名であるが、彼らのうちから11報の論文が発表された。これは、留学により学生が刺激を受け、活性化したと考えている。

(A-I 岡山大学)

これまでの全学交流プログラムを、国際共同大学院の設立によって研究科単位で支える構造にすることによって、体系的に科目を履修し、学位を授与するシステムが完成する。そのために、社会文化科学研究科、医歯薬総合研究科、自然科学研究科、教育学研究科が一体となって、日中韓国際共同大学院の設立を目指す。

## タイプB

(B-I 東京大学)

平成25年度、26年度には、海外連携大学の協力により、本学若手教員を対象としたファカルティディベロップメントワークショップが開催された。さらに、平成26年度には分野横断的テーマで夏期集中講義を実施した。また、共同講義シリーズの第一回として、各海外連携大学から講師を招聘し、本学教員と共に集中講義を実施した。

(B-I 立命館アジア太平洋大学)

米国の大学と共同で、これまで蓄積された経験やデータから、プログラムの特徴と学生の学びを反映したアウトカムを設定した。さらに各種のルーブリックを構築し、今後の両大学間の全プログラムに対応できる包括的な学びと評価の基盤とした。またアウトカムアセスメントの先駆的研究となるよう、アウトカムをベースにした長期研究を両大学の全プログラム生とバディ(卒業生を含む)を対象に進めている。今後はプログラム参加学生の卒業後の進路も追い、留学の長期的インパクトを研究することで、更なる学びの分析とプログラムの質の向上に努める。

(B-II 筑波大学)

平成27年度以降を見据えた、新たな学士課程及び博士課程の共同学位プログラムの創設を視野に入れた討議を行い、その可能性についての検討も行った。

(B-II 関西学院大学)

平成26年度も例年通り、Joint Management Committee(共同運営委員会)及びJoint Academic Committee(共同教務委員会)を実施。4大学の委員が一同に会し、本事業の教育効果を改めて認識し合ったことにより、補助事業終了後も4大学が協力し、クロス・カルチャラル・カレッジ(CCC)を継続していくことについて合意した。

### ③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備

#### タイプA

(A-I 政策研究大学院大学)

本学在籍学生で英語、中国語を話すリサーチアシスタント(RA)を採用。受入れ学生の人脈づくりに関与するなど、学生ならではのコミュニケーション能力が役立った。また、英語が通じないことの多い中国での研修において、中国を話せることは大きな言語的サポートとなった。

(A-I 名古屋大学)

派遣から帰ってきた学生のために、中国語・韓国語による講義を学部科目として設置したが、これは語学力の維持及び専門の学習の継続の動機となっている。

(A-I 神戸大学)

前年度のプログラム参加学生と今年度の学生との間の連絡を促し、留学経験者の持つ情報を事前に共有させるとともに、(1)プログラム学生が留学中に提出しているマンスリーレポートを、了解を取ったうえで派遣予定学生の閲覧に供する、(2)事前に本学教員が派遣元大学に出張して、受け入れ予定の学生と面談を行なう等、留学生生活を始めるにあたっての不安を払拭し、学生がスムーズに留学をスタートできるように図っている。

(A-II 京都大学)

本学に在籍する留学生をチューターとして雇用し、学習や生活に関してきめ細かく支援した。また、本学学生のインドネシア派遣期間中は、現地に常時1名以上の本学教員を監督者として滞在させた。

## タイプB

(B-I 東京大学)

更なる職員のスキルアップを目指し、工学系職員を対象としたスタッフディベロップメント(SD)研修の一環として、外国人教員によるビジネスイングリッシュ、プロフェッショナルコミュニケーションの講義をレベル別に実施した。外国人学生の受入に当たって常にネックとなってきた宿舎については、全学的な対応を強化し、新たにキャンパス付近に三つの国際学生宿舎の整備が進んでいる他、民間アパートやホテルの借り上げ、シェアハウス型の居室提供など、様々な計画が進行中である。

(B-I 東京工業大学)

大学所有の学生寮が不足しているため、本事業では民間宿舎を活用した。大学が賃貸借契約を行なうことの新たな大学運営上のノウハウを蓄えた。

(B-I 早稲田大学)

参加学生には科目優先登録制度を設けており、平成26年9月に受入を開始した米国学生は、学部を越えた優先登録の特別措置により、各自の専門分野など希望する科目を履修することが可能となっている。

(B-II 広島大学)

日本人学生の派遣のための環境整備については、留学に関する情報誌、また留学ガイドブックの配布、学生スタッフを活用した留学アドバイジング、先輩学生との意見交換座談会の開催、留学報告会の開催等、留学希望の学生に必要な情報が届くようにしている。

(B-II 慶應義塾大学)

外国人学生の9月入学・修了を取り入れ、留学生専門の学習指導教員によるサポート及びチューター制度を整備し、外国人学生受入れのための環境整備を行っている。

## ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

### タイプA

(A-I 神戸大学)

平成25年度中に、プログラムホームページを日英中韓の4か国語対応とし、多言語での情報発信体制を構築済みであり、平成26年度中も随時更新を行なっている。また、プログラムパンフレット(日英両言語版)を更新するとともに、プログラムにおける具体的な取組の内容と成果をニュースレター(日英併記)にとりまとめた。

(A-I 立命館大学)

高大連携プログラムの常設化に向けて、キャンパスアジアという新しい学びを知ってもらうため、11月には約90名の高校生を本学に集め、韓国の大学で共に学ぶ3カ国の学生とSkypeで繋ぎ、それぞれプログラムの紹介や質疑応答を行った。

(A-I 九州大学)

ダブルディグリー(DD)を取得したDD1期生20名の輩出が最大の実績としてあげられる。所属大学と派遣先大学の修了要件を満たし、且つ、修士論文審査をクリアした学生は、九州大学生9名、釜山大学校生4名、上海交通大学生7名であった。これにより、本プログラムの当初目標であったDD取得プログラムは、一応の完成を見たと言える。

(A-I 一橋大学)

ソウル大学校への本学の学生派遣については、本学のアカデミックカレンダーの改訂を前提としたカリキュラムの改正や、本学・ソウル大学校双方における学生への周知の結果、派遣を行うことができた。更に、北京大学に派遣した学生が積極的に現地学生との交流を図り、本学のPR活動も行った結果、平成27年度北京大学からのダブル・ディグリー・プログラム参加学生を1名受入予定という成果も現れている。

## タイプB

(B-I 名古屋大学)

本プログラムで行われた研究が、学会発表、論文発表された。例えばF-L. Chang (Univ. Michigan), S. Hara, N. Saeki and T. Yoshiura (Nagoya Univ.), Final-State Control Algorithm with Overshoot/ Undershoot Prevention Technique for a Connection Control Problem, IEEE J. Industry Applications, Vol.4 No.3, 2015, 286-293が挙げられる。

(B-I 国際教養大学)

平成26年度にディキンソン・カレッジと協働開講したPBL科目 (GSP392: Living Well in Later Life) が、The Forum on Education Abroad(米国)が、斬新かつ効果的な海外教育プログラムに対して与える、Award for Excellence in Education Abroad Curriculum Designを受賞した。

(B-I 慶應義塾大学)

平成26年12月には、スペインのIEビジネススクールと本学メディアデザイン研究科の共催イベント「IE-KMD Venture Day」で実施されたビジネスコンテストに参加し、本プログラムの受入学生2人を含むチームのビジネスプランが3位を獲得し、成果が認められた。平成27年3月には、シンガポールで行われた国際会議「Augmented Human 2015」において、Royal College of Art/Imperial College Londonの学生が、本学留学中に考案したプロジェクトを発表し審査員賞を受賞した。

(B-II 千葉大学)

企業連携について各企業と交渉を進め、平成26年度は9件の海外大学アライアンスプログラム(デザインワークショップ)においてすべてを企業のサポートを得て産学連携体制で実施することができた。

(B-II 筑波大学)

年度末には外部アドバイザー委員会を開き、学外の有識者にプログラム内容をご覧頂き批評及び評価頂くなど、客観的視点からプログラムの成果と課題を明確にする作業を行った。

(B-II 関西学院大学)

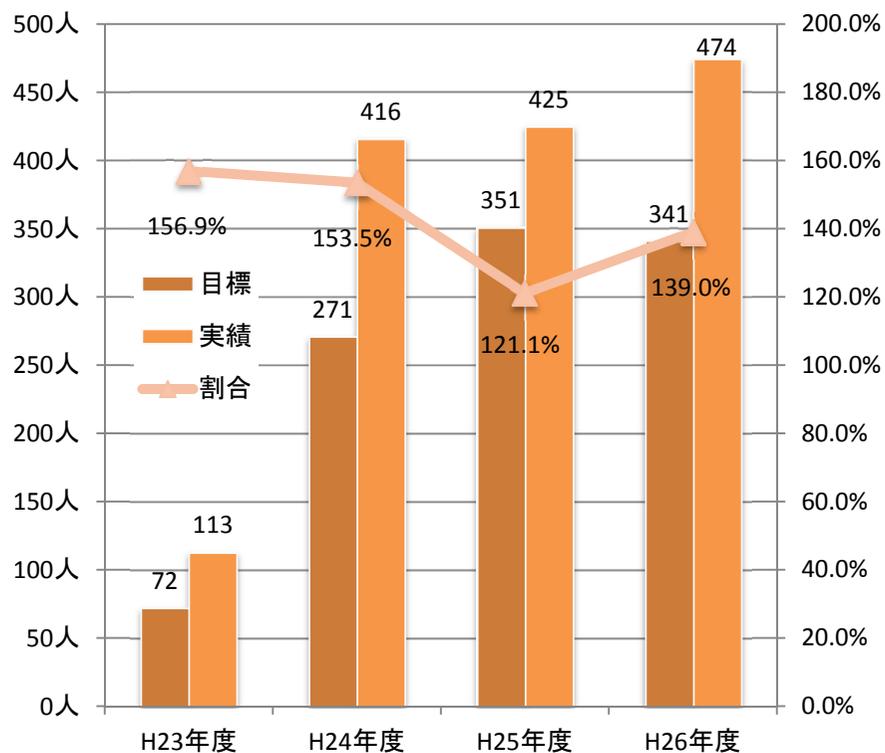
留学生交流促進プログラムの日本コンソーシアム加盟校へのプログラム開放に向けて準備を進めており、既に広報を開始している。

## 2. 交流学生数の実績(1)

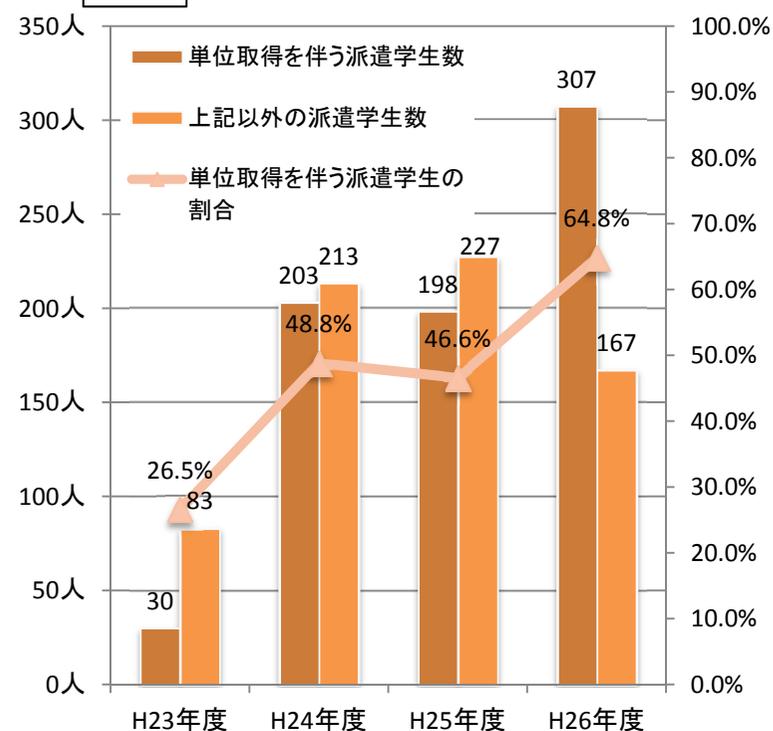
(1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

### タイプA

全ての年度で目標を上回っており、単位取得を伴う派遣学生の割合も増加している。

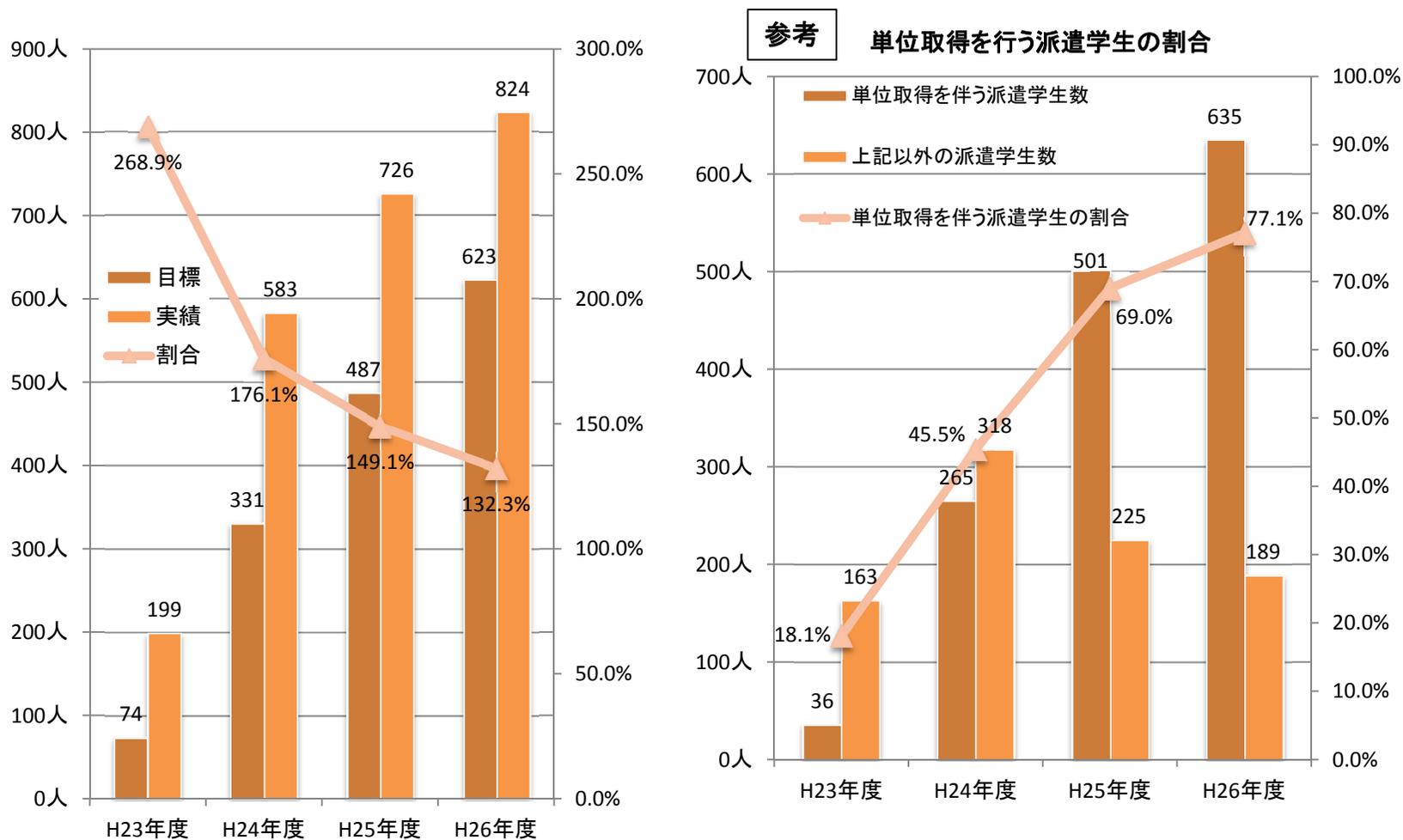


### 参考 単位取得を伴う派遣学生の割合



## タイプB

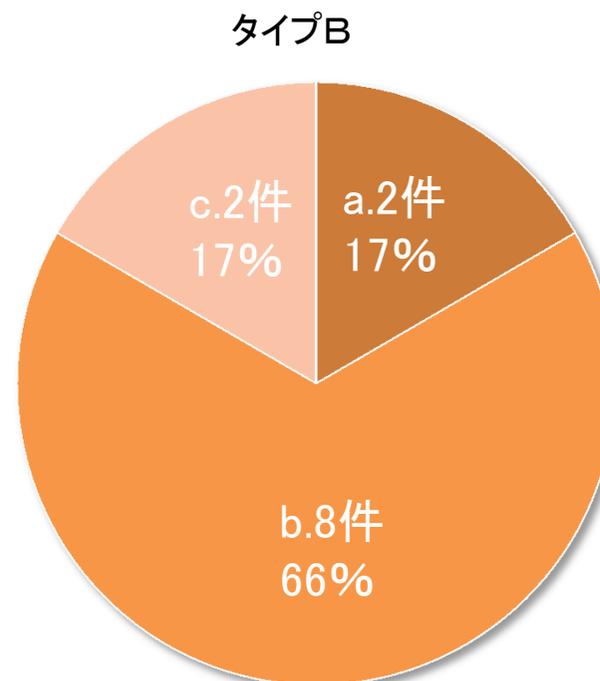
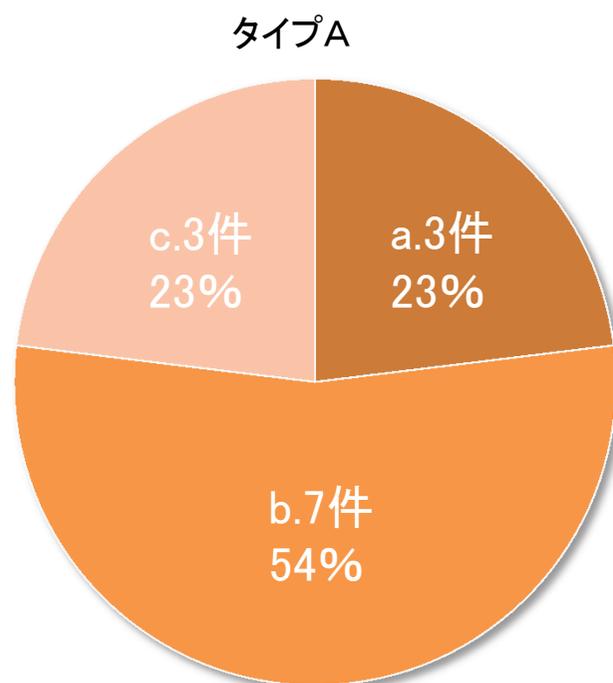
全ての年度で目標を上回っており、単位取得を伴う派遣学生の割合も増加している。



(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【各プログラムの状況(平成23年度～平成26年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

## タイプA

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(A-I 九州大学)

九州大学総合理工学府では、ダブルディグリー(DD)取得を可能にしたエネルギー環境理工学国際コース(EESTコース)を創設、発足し、DD取得を目指す九州大学生だけではなく、非DD生(留学をしない)へも対象を拡大し、このEESTコースへと所属させているので、参加対象学生として積極的に派遣、参加させた。また、サマースクールとは別に、3大学学生の研究交流事業として、CSS-EESTオータムセミナーも3大学内で輪番制にて開催した結果、当EESTコース生を含め、総合理工学府内の学生も多数参加することとなり、構想時の学生交流数より多数の交流実績を残すことができている。

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

(A-I 神戸大学)

平成26年度の派遣学生数は、絶対数を見れば順調に増加しており(1→6→6→11)、詳細をさらに見れば、12ヶ月の留学を必須とするダブルディグリー学生(0→4→4→7)・6ヶ月の留学を基本としながらも12ヶ月の留学者も含む交換留学生(1→2→2→4)ともに順調に増加している。したがって、交流プログラムとしては着実な実績の積み上げを見せているものと考えられる。

## タイプB

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(B-II 広島大学)

平成26年度の派遣事業については、短期の研修プログラム及び半年から1年間の中長期交換留学プログラムを実施した。短期研修については、新入生を対象とする①STARTプログラム、「平和と人権」「保健」を学習テーマとした欧州等への②Study Abroadプログラム、豪州「環境」分野の③プレ修士サマースクールがある。また、中長期派遣については、半年から1年間の交換留学HUSAプログラムにより、4名の学生をジェームス・マディソン大学(米国)、キョンヒ大学(韓国)、オークランド大学(ニュージーランド)、国立政治大学(台湾)の海外連携大学へ派遣した。

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

(B-I 国際教養大学)

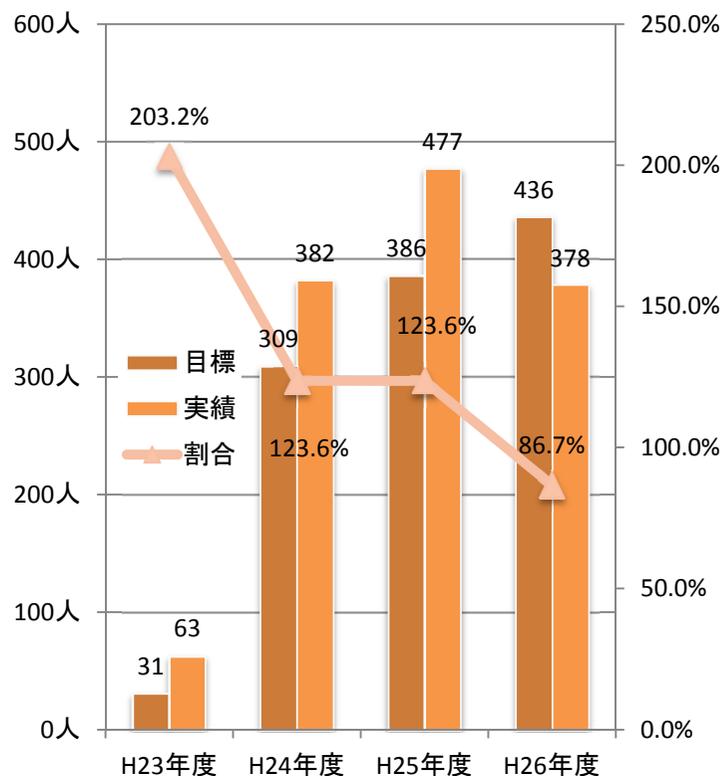
平成26年度も、留学と連動するタイプのPBL科目に加え、留学終了後の学生を対象とした独立型のPBL科目を開講しているが、平成27年度より就職活動時期が後ろ倒しになったこともあり、留学終了後にPBL科目を履修すると就職活動に間に合わなくなるという状況が発生するため、参加学生の確保に難航した。留学終了後ではなく、留学途中でPBL科目を履修できるよう海外連携大学と協議することで、平成27年度の実施へ繋げている。

## 2. 交流学生数の実績(2)

(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況】

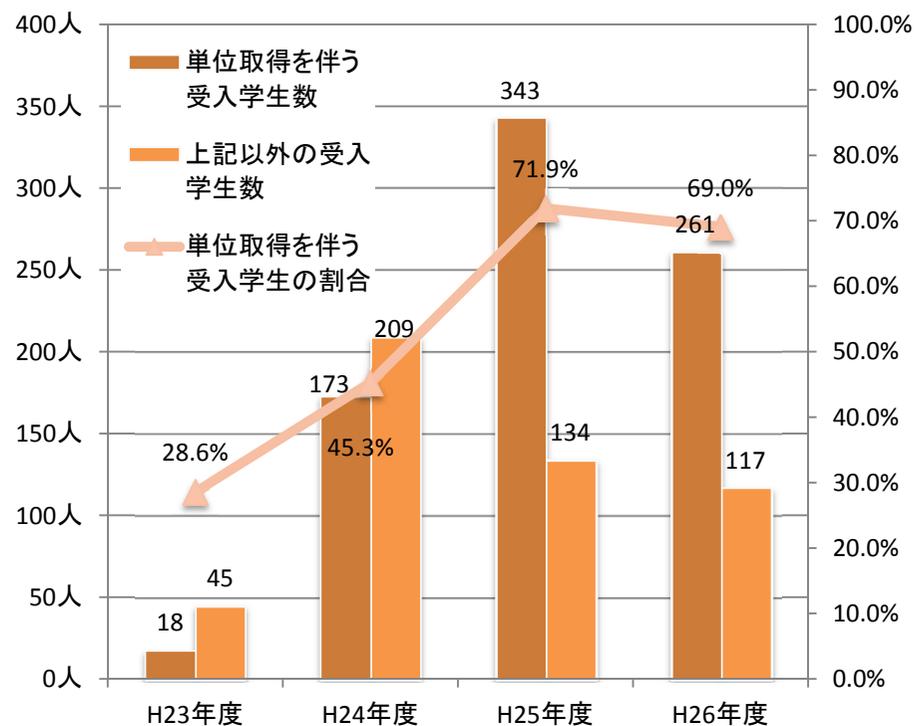
### タイプA

平成26年度は実績が目標を下回った。ただし平成25年度より、全受入学生のうち、単位取得を伴う受入学生の割合が上回っている。



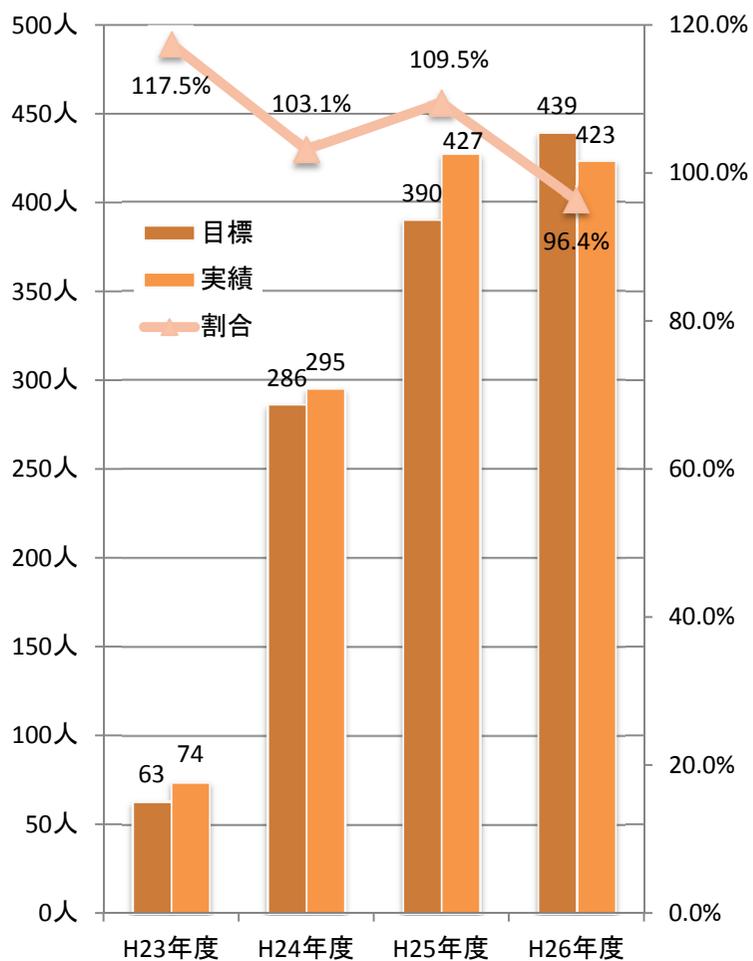
### 参考

単位取得を伴う受入学生の割合



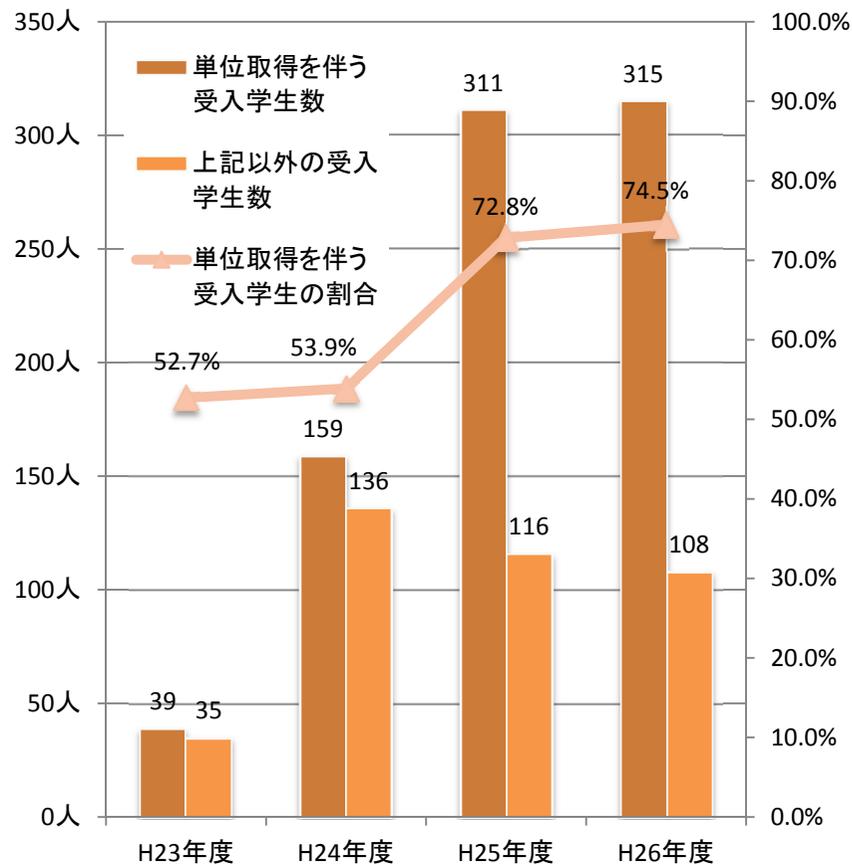
## タイプB

平成26年度は実績が目標を下回った。ただし、全受入学生のうち、単位取得を伴う受入学生の割合が常に上回っている。



### 参考

単位取得を行う受入学生の割合

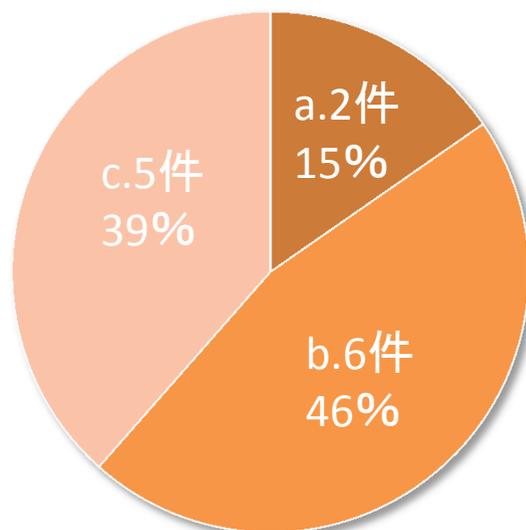


(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について  
【各プログラムの状況(平成23年度～平成26年度)】

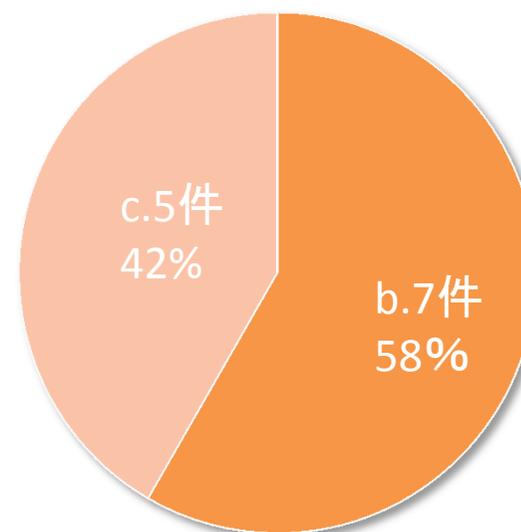
達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム

タイプA



タイプB



※プログラムごとの受入学生数の詳細は別表2参照

## (2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

### タイプA

#### 【平成26年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(A-I ○名古屋大学、東北大学)

受入指導教員の認定に基づき修士・博士の研究活動相当の単位を発行している。学生は、帰国後に報告書及び指導教員との面接により成績評価される。留学の成果については、公開シンポジウムや研究会において、研究成果を発表し、学生同士及び教員が評価することで成果をフィードバックする。受入学生数に大きな変動はないものの、短期留学者数は減少傾向にあるなかで、3ヶ月以上の留学者数が増える傾向にある。

#### 【平成26年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

(A-I 神戸大学)

平成26年度の受入学生数は、絶対数を見れば堅調に推移しており(0→8→10→10)、詳細を更に見れば、12ヶ月の留学を必須とするダブルディグリー学生(0→3→5→5)・6ヶ月の留学生を送る交換留学生(0→5→5→5)ともに安定的に推移している。平成27年度にも受入学生数は堅調である(8名、DD2/EX6)。したがって、交流プログラムとしては着実に実績を積みつつあるものと判断している。

## タイプB

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(B-I 東京工業大学)

平成26年度は、当初の目標に対し、3か月以上受け入れた学生9人、3か月未満受け入れた学生12名の計21名であった。他にも留学フェアでの説明や、海外連携大学への留学経験者と海外連携大学から留学に来ている学生に参加してもらい募集説明会を開催した。KAISTとのダブル・ディグリープログラムの実施に向けた全学的に協議を進めており、ダブルディグリーを制度化することによって、今後も高次のレベルでの交流を進めていくことを目標としている。

(B-II 千葉大学)

交換留学(3ヶ月以上)への受入学生数については、本構想開始年度より順調に増加しており、平成26年度は7大学より13人となり申請時の構想調書記載人数の10人を上回った。また、欧米地域以外からは、中国・台湾・韓国から13人を交換留学生として、16人を正規学生として受入れた。海外大学アライアンスプログラム(3ヶ月未満)による受入学生数についても、本構想開始年度より順調に増加しており、平成26年度は29人となった。

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

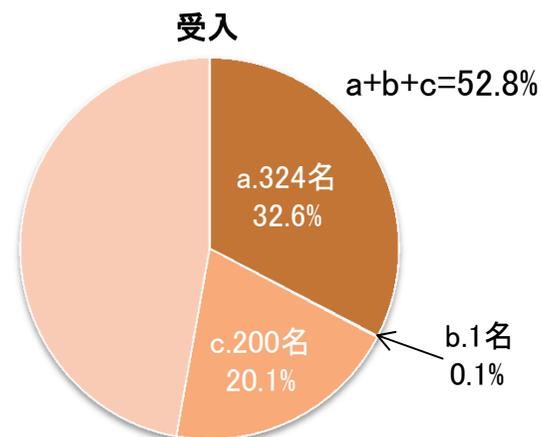
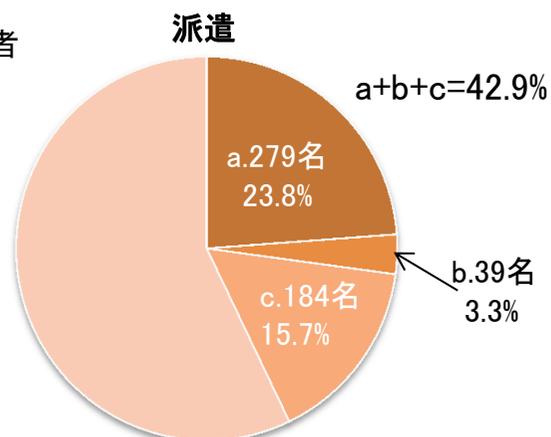
(B-I 国際教養大学)

当初は、本学の学生同様、PBL科目終了後に本学へ交換留学する長期滞在の外国人学生の獲得を目指していたが、海外連携大学側のカリキュラムや卒業年次との兼ね合いから、PBL科目のみに参加する学生が大半を占めている。平成26年度以降も、PBL科目のみを履修する外国人学生を受け入れる予定である。受入人数については、PBL科目の開講数が構想調書に掲げた計画通りに進行していないため達成目標には及ばないが、できるだけ目標に近づけるよう努力していく。

### (3) 奨学金・宿舎提供の状況(タイプA-I)について 【全体の状況(平成23年度～平成26年度)】

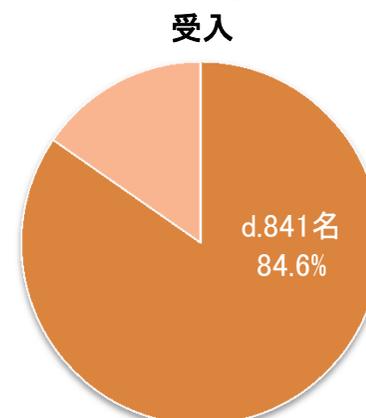
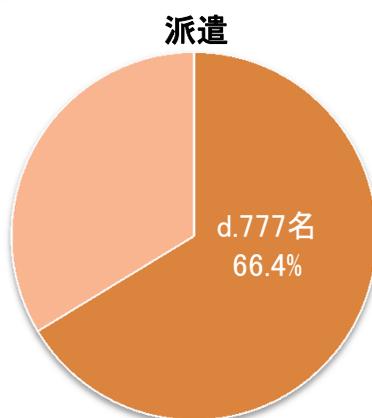
◆奨学金を受けている学生の割合は、派遣42.9%、受入52.8%

- a.日中間三国共通の財政支援受給者
- b.大学による奨学金受給者
- c.その他の奨学金受給者



◆宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数の割合は、派遣66.4%、受入84.6%

- d.宿舎を提供されている学生数



※プログラムごとの学生数の詳細は別表3参照

別表1:プログラムごとの派遣学生数

(単位:名)

		取組年度	合計人数						達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)					
			目標			実績				単位取得を伴う派遣学生数			左記以外の派遣学生数		
			(計)	中韓	中韓以外	実績	中韓	中韓以外		(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上
			実績			実績				実績			実績		
東京大学	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	H23	0	0	0	14	14	0	0	0	0	14	14	0	
		H24	5	5	0	22	22	0	22	14	8	0	0	0	
		H25	15	15	0	13	13	0	13	0	13	0	0	0	
		H26	22	22	0	33	33	0	33	18	15	0	0	0	
		計	42	42	0	82	82	0	195.2	68	32	36	14	14	0
東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環	H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H24	10	10	0	11	11	0	9	5	4	2	1	1	
		H25	10	10	0	10	10	0	8	6	2	2	1	1	
		H26	10	10	0	12	12	0	9	7	2	3	2	1	
		計	30	30	0	33	33	0	110.0	26	18	8	7	4	3
一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	H23	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	
		H24	16	16	0	14	14	0	7	5	2	7	7	0	
		H25	16	16	0	12	12	0	7	6	1	5	5	0	
		H26	16	16	0	13	13	0	6	3	3	7	7	0	
		計	49	49	0	40	40	0	81.6	21	15	6	19	19	0
政策研究大学院大学	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	H23	0	0	0	16	16	0	0	0	0	16	16	0	
		H24	10	10	0	31	31	0	3	3	0	28	28	0	
		H25	20	20	0	24	24	0	4	4	0	20	20	0	
		H26	20	20	0	42	42	0	6	6	0	36	36	0	
		計	50	50	0	113	113	0	226.0	13	13	0	100	100	0
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・ネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H23	10	10	0	11	11	0	0	0	0	11	11	0	
		H24	28	28	0	35	35	0	10	1	9	25	25	0	
		H25	38	38	0	35	35	0	20	0	20	15	15	0	
		H26	38	38	0	35	35	0	20	0	20	15	15	0	
		計	114	114	0	116	116	0	101.8	50	1	49	66	66	0
○名古屋大学、東北大学	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H24	8	8	0	31	31	0	7	5	2	24	24	0	
		H25	12	12	0	51	51	0	11	3	8	40	40	0	
		H26	12	12	0	17	17	0	14	9	5	3	3	0	
		計	32	32	0	99	99	0	309.4	32	17	15	67	67	0
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H23	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	
		H24	6	6	0	6	6	0	6	0	6	0	0	0	
		H25	17	16	1	9	9	0	9	0	9	0	0	0	
		H26	18	16	2	11	11	0	11	0	11	0	0	0	
		計	42	39	3	27	27	0	64.3	27	0	27	0	0	0
岡山大学	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	H23	0	0	0	19	19	0	9	0	9	10	10	0	
		H24	69	69	0	81	81	0	33	22	11	48	48	0	
		H25	69	69	0	79	79	0	32	22	10	47	47	0	
		H26	69	69	0	96	96	0	76	66	10	20	20	0	
		計	207	207	0	275	275	0	132.9	150	110	40	125	125	0
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H24	18	18	0	27	27	0	27	21	6	0	0	0	
		H25	32	32	0	59	59	0	10	0	10	49	49	0	
		H26	14	14	0	105	105	0	56	44	12	49	49	0	
		計	64	64	0	191	191	0	298.4	93	65	28	98	98	0
立命館大学	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	H23	30	30	0	16	16	0	0	0	0	16	16	0	
		H24	40	40	0	70	70	0	12	8	4	58	58	0	
		H25	40	40	0	66	66	0	20	20	0	46	46	0	
		H26	40	40	0	43	43	0	11	10	1	32	32	0	
		計	150	150	0	195	195	0	130.0	43	38	5	152	152	0
京都大学	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成-災害復興の経験を踏まえて-	H23	0			0			0	0	0	0	0	0	
		H24	15			33			15	15	0	18	18	0	
		H25	15			16			16	16	0	0	0	0	
		H26	15			15			15	15	0	0	0	0	
		計	45			64			46	46	0	18	18	0	
○大阪大学、広島大学、長崎大学、名桜大学	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成	H23	10			16			0	0	0	16	16	0	
		H24	21			29			26	19	7	3	1	2	
		H25	22			23			22	13	9	1	0	1	
		H26	22			24			23	15	8	1	0	1	
		計	75			92			71	47	24	21	17	4	
早稲田大学	アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想	H23	20			19			19	19	0	0	0	0	
		H24	25			26			26	19	7	0	0	0	
		H25	45			28			26	20	6	2	2	0	
		H26	45			28			27	15	12	1	1	0	
		計	135			101			74.8	98	73	25	3	3	0
タイプA 合計			1,035			1,428			138.0	738	475	263	690	683	7

(単位:名)

	取組年度	合計人数	目標			実績			達成目標に対する実績の割合 (%)	(内訳)						
			(計)	中韓	中韓以外	実績	中韓	中韓以外		単位取得を伴う派遣学生数			左記以外の派遣学生数			
										(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	
																実績
タイプB・I	東京大学	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出	H23	22			70				27	18	9	43	43	0
			H24	77			59				24	14	10	35	35	0
			H25	78			68				45	27	18	23	23	0
			H26	78			69				48	31	17	21	21	0
			計	255			266			104.3	144	90	54	122	122	0
	東京工業大学	グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク	H23	0			0				0	0	0	0	0	0
			H24	17			22				11	0	11	11	11	0
			H25	17			20				4	1	3	16	9	7
			H26	17			14				0	0	0	14	11	3
			計	51			56			109.8	15	1	14	41	31	10
	名古屋大学	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム	H23	0			37				0	0	0	37	37	0
			H24	21			50				21	16	5	29	29	0
			H25	14			51				16	14	2	35	35	0
			H26	32			22				22	12	10	0	0	0
			計	67			160			238.8	59	42	17	101	101	0
	国際教養大学	「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築	H23	0			0				0	0	0	0	0	0
			H24	21			5				5	0	5	0	0	0
			H25	27			15				15	8	7	0	0	0
			H26	39			13				13	9	4	0	0	0
			計	87			33			37.9	33	17	16	0	0	0
慶應義塾大学	グローバルイノベーションデザイン・プログラム	H23	0			4				0	0	0	4	4	0	
		H24	20			21				8	8	0	13	13	0	
		H25	20			26				16	0	16	10	10	0	
		H26	20			27				16	0	16	11	11	0	
		計	60			78			130.0	40	8	32	38	38	0	
早稲田大学	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム	H23	0			0				0	0	0	0	0	0	
		H24	0			5 ※				5	0	5	0	0	0	
		H25	12			10				10	0	10	0	0	0	
		H26	13			11				11	0	11	0	0	0	
		計	25			26			104.0	26	0	26	0	0	0	
立命館アジア太平洋大学	APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで	H23	20			8				0	0	0	8	8	0	
		H24	65			49				26	26	0	23	23	0	
		H25	70			65				43	41	2	22	22	0	
		H26	70			68				46	45	1	22	22	0	
		計	225			190			84.4	115	112	3	75	75	0	
筑波大学	人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム	H23	2			2				0	0	0	2	2	0	
		H24	9			9				0	0	0	9	9	0	
		H25	17			17				6	0	6	11	11	0	
		H26	23			23				14	0	14	9	9	0	
		計	51			51			100.0	20	0	20	31	31	0	
千葉大学	大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)	H23	3			9				9	5	4	0	0	0	
		H24	17			31				31	24	7	0	0	0	
		H25	27			54				54	42	12	0	0	0	
		H26	25			31				31	23	8	0	0	0	
		計	72			125			173.6	125	94	31	0	0	0	
広島大学	国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育	H23	2			3				0	0	0	3	3	0	
		H24	23			143				104	101	3	39	39	0	
		H25	27			157				117	113	4	40	40	0	
		H26	27			223				197	197	0	26	26	0	
		計	79			526			665.8	418	411	7	108	108	0	
慶應義塾大学	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築	H23	25			58				0	0	0	58	58	0	
		H24	45			162				3	3	0	159	159	0	
		H25	120			174				106	84	22	68	68	0	
		H26	180			199				113	99	14	86	86	0	
		計	370			593			160.3	222	186	36	371	371	0	
関西学院大学	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」	H23	0			8				0	0	0	8	8	0	
		H24	16			27				27	27	0	0	0	0	
		H25	58			69				69	47	22	0	0	0	
		H26	99			124				124	69	55	0	0	0	
		計	173			228			131.8	220	143	77	8	8	0	
タイプB 合計			1,515			2,332			153.9	1,437	1,104	333	895	885	10	
総計			2,550			3,760			147.5	2,175	1,579	596	1,585	1,568	17	

※早稲田大学のH24の5名は、本プログラムの開始に先立ち、既存の交換協定に基づく派遣学生数である。

別表2:プログラムごとの受入学生数

(単位:名)

	取組年度	合計人数	目標			実績			達成目標に対する実績の割合 (%)	(内訳)						
			(計)	中韓		実績	中韓			(計)	単位取得を伴う受入学生数			左記以外の受入学生数		
				中韓以外	実績		中韓以外	実績			(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上
東京大学	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	H23	0	0	0	0	0	0	109.6	0	0	0	0	0	0	
		H24	10	10	0	8	8	0	8	0	8	0	0	0	0	
		H25	20	20	0	34	34	0	34	19	15	0	0	0	0	
		H26	22	22	0	15	15	0	15	0	15	0	0	0	0	
		計	52	52	0	57	57	0	57	19	38	0	0	0	0	
東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環	H23	0	0	0	0	0	0	173.3	0	0	0	0	0	0	
		H24	10	10	0	15	15	0	12	8	4	3	0	3		
		H25	10	10	0	16	16	0	13	8	5	3	1	2		
		H26	10	10	0	21	21	0	17	9	8	4	3	1		
		計	30	30	0	52	52	0	42	25	17	10	4	6		
一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	H23	1	1	0	0	0	0	74.7	0	0	0	0	0	0	
		H24	26	26	0	20	20	0	10	10	0	10	10	0		
		H25	26	26	0	21	21	0	21	19	2	0	0	0		
		H26	26	26	0	18	18	0	18	18	0	0	0	0		
		計	79	79	0	59	59	0	49	47	2	10	10	0		
政策研究大学院大学	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	H23	0	0	0	0	0	0	118.0	0	0	0	0	0	0	
		H24	10	10	0	23	23	0	3	0	3	20	20	0		
		H25	20	20	0	20	20	0	18	14	4	2	0	2		
		H26	20	20	0	16	16	0	16	14	2	0	0	0		
		計	50	50	0	59	59	0	37	28	9	22	20	2		
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・ネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H23	0	0	0	0	0	0	114.4	0	0	0	0	0	0	
		H24	28	20	8	36	28	8	28	18	10	8	8	0		
		H25	38	30	8	45	37	8	37	18	19	8	8	0		
		H26	38	30	8	38	36	2	36	18	18	2	2	0		
		計	104	80	24	119	101	18	101	54	47	18	18	0		
○名古屋大学、東北大学	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	H23	0	0	0	1	1	0	256.3	1	0	1	0	0	0	
		H24	8	8	0	22	22	0	16	5	11	6	6	0		
		H25	12	12	0	20	20	0	13	2	11	7	7	0		
		H26	12	12	0	39	39	0	17	1	16	22	22	0		
		計	32	32	0	82	82	0	47	8	39	35	35	0		
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H23	0	0	0	0	0	0	65.1	0	0	0	0	0	0	
		H24	6	6	0	8	8	0	8	0	8	0	0	0		
		H25	18	16	2	10	10	0	10	0	10	0	0	0		
		H26	19	16	3	10	10	0	10	0	10	0	0	0		
		計	43	38	5	28	28	0	28	0	28	0	0	0		
岡山大学	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	H23	0	0	0	12	12	0	91.0	12	12	0	0	0	0	
		H24	67	67	0	33	33	0	23	12	11	10	10	0		
		H25	67	67	0	86	86	0	39	22	17	47	45	2		
		H26	67	67	0	52	52	0	40	22	18	12	9	3		
		計	201	201	0	183	183	0	114	68	46	69	64	5		
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	H23	0	0	0	20	20	0	259.5	0	0	0	20	20	0	
		H24	8	8	0	66	66	0	6	0	6	60	60	0		
		H25	12	12	0	86	76	10	65	57	8	21	21	0		
		H26	59	54	5	33	33	0	10	1	9	23	23	0		
		計	79	74	5	205	195	10	81	58	23	124	124	0		
立命館大学	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	H23	0	0	0	0	0	0	93.7	0	0	0	0	0	0	
		H24	60	60	0	74	74	0	0	0	0	74	74	0		
		H25	65	65	0	51	51	0	20	20	0	31	31	0		
		H26	65	65	0	53	53	0	23	20	3	30	30	0		
		計	190	190	0	178	178	0	43	40	3	135	135	0		
京都大学	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成-災害復興の経験を踏まえて-	H23	0			0			100.0	0	0	0	0	0	0	
		H24	15			15			15	15	0	0	0	0		
		H25	15			15			15	15	0	0	0	0		
		H26	15			15			15	15	0	0	0	0		
		計	45			45			45	45	0	0	0	0		
○大阪大学、広島大学、長崎大学、名城大学	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成	H23	10			10			103.9	5	5	0	5	5	0	
		H24	21			22			22	12	10	0	0	0		
		H25	23			24			24	12	12	0	0	0		
		H26	23			24			24	12	12	0	0	0		
		計	77			80			75	41	34	5	5	0		
早稲田大学	アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想	H23	20			20			85.0	0	0	0	20	20	0	
		H24	40			40			22	13	9	18	18	0		
		H25	60			49			34	10	24	15	15	0		
		H26	60			44			20	8	12	24	24	0		
		計	180			153			76	31	45	77	77	0		
タイプA 合計			1,162			1,300			111.9	795	464	331	505	492	13	

タイプA・I

タイプA・II

(単位:名)

	取組年度	合計人数						達成目標に対する実績の割合 (%)	(内訳)					
		目標			実績				単位取得を伴う受入学生数			左記以外の受入学生数		
		(計)	中韓	中韓以外	実績	中韓	中韓以外		(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	3ヶ月未満	3ヶ月以上
		実績			実績				実績			実績		
東京大学	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出	H23	15			14			14	11	3	0	0	0
		H24	57			25			17	8	9	8	8	0
		H25	57			49			48	45	3	1	1	0
		H26	57			55			55	42	13	0	0	0
		計	186			143			76.9	134	106	28	9	9
東京工業大学	グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク	H23	0			0			0	0	0	0	0	0
		H24	17			17			17	1	16	0	0	0
		H25	17			25			16	0	16	9	0	9
		H26	17			29			13	8	5	16	9	7
		計	51			71			139.2	46	9	37	25	9
名古屋大学	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム	H23	6			0			0	0	0	0	0	0
		H24	8			10			9	9	0	1	1	0
		H25	22			18			18	18	0	0	0	0
		H26	17			19			19	17	2	0	0	0
		計	53			47			88.7	46	44	2	1	1
国際教養大学	「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築	H23	0			0			0	0	0	0	0	0
		H24	14			0			0	0	0	0	0	0
		H25	27			16			16	11	5	0	0	0
		H26	38			10			10	10	0	0	0	0
		計	79			26			32.9	26	21	5	0	0
慶應義塾大学	グローバルイノベーションデザイン・プログラム	H23	0			4			0	0	0	4	4	0
		H24	5			6			0	0	0	6	6	0
		H25	25			19			19	0	19	0	0	0
		H26	25			22			22	0	22	0	0	0
		計	55			51			92.7	41	0	41	10	10
早稲田大学	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム	H23	0			0			0	0	0	0	0	0
		H24	0			9 ※			9	0	9	0	0	0
		H25	0			0			0	0	0	0	0	0
		H26	12			11			11	0	11	0	0	0
		計	12			20			166.7	20	0	20	0	0
立命館アジア太平洋大学	APU-SEUグローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで	H23	20			16			0	0	0	16	16	0
		H24	30			40			0	0	0	40	40	0
		H25	30			28			0	0	0	28	28	0
		H26	35			35			0	0	0	35	35	0
		計	115			119			103.5	0	0	0	119	119
筑波大学	人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム	H23	0			0			0	0	0	0	0	0
		H24	9			11			0	0	0	11	11	0
		H25	23			17			17	11	6	0	0	0
		H26	23			25			25	11	14	0	0	0
		計	55			53			96.4	42	22	20	11	11
千葉大学	大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)	H23	12			25			25	24	1	0	0	0
		H24	20			36			36	23	13	0	0	0
		H25	28			57			57	41	16	0	0	0
		H26	34			42			42	29	13	0	0	0
		計	94			160			170.2	160	117	43	0	0
広島大学	国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育	H23	0			0			0	0	0	0	0	0
		H24	56			61			21	20	1	40	39	1
		H25	66			71			21	15	6	50	50	0
		H26	66			72			15	15	0	57	57	0
		計	188			204			108.5	57	50	7	147	146
慶應義塾大学	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築	H23	10			15			0	0	0	15	15	0
		H24	30			30			0	0	0	30	30	0
		H25	50			65			37	0	37	28	28	0
		H26	70			53			53	0	53	0	0	0
		計	160			163			101.9	90	0	90	73	73
関西学院大学	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」	H23	0			0			0	0	0	0	0	0
		H24	40			50			50	50	0	0	0	0
		H25	45			62			62	62	0	0	0	0
		H26	45			50			50	50	0	0	0	0
		計	130			162			124.6	162	162	0	0	0
タイプB 合計		1,178			1,219			103.5	824	531	293	395	378	17
総計		2,340			2,519			107.6	1,619	995	624	900	870	30

※早稲田大学のH24の9名は、本プログラムの開始に先立ち、既存の交換協定に基づく受入学生数である。

# 別表3: 奨学金・宿舎提供の状況(タイプA-I)

(単位:名)

	取組年度	派遣						受入						
		派遣学生数	奨学金を受けている学生数			宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数	受入学生数	奨学金を受けている学生数			宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数			
			日中韓三国共通の財政支援受給者	大学による奨学金	その他の奨学金			日中韓三国共通の財政支援受給者	大学による奨学金	その他の奨学金				
東京大学	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	H23	14	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	
		H24	22	8	8	0	0	20	8	8	8	0	0	8
		H25	13	13	13	0	0	13	34	34	15	0	19	34
		H26	33	15	14	1	0	30	15	15	15	0	0	15
東京工業大学	日中韓先進科学技術大学教育環	H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H24	11	11	6	1	4	11	15	15	3	0	12	15
		H25	10	10	2	0	8	10	16	16	0	0	16	16
		H26	12	12	0	0	12	12	21	21	4	0	17	21
一橋大学	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	H23	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
		H24	14	4	4	0	0	4	20	0	0	0	0	
		H25	12	14	12	2	0	0	21	19	19	0	0	0
		H26	13	16	14	2	0	3	18	18	18	0	0	0
政策研究大学院大学	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	H23	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H24	31	3	3	0	0	3	23	3	3	0	0	3
		H25	24	4	4	0	0	4	20	6	6	0	0	6
		H26	42	4	4	0	0	4	16	2	2	0	0	2
名古屋大学	東アジア「ユス・コム・エネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	H23	11	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	
		H24	35	10	10	0	0	35	28	10	10	0	0	28
		H25	35	20	20	0	0	25	37	19	19	0	0	37
		H26	35	20	20	0	0	26	36	18	18	0	0	36
○名古屋大学、東北大学	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	H23	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	
		H24	31	7	2	0	5	7	22	17	11	0	6	22
		H25	51	11	8	0	3	11	20	13	11	0	2	13
		H26	17	8	5	3	0	17	39	17	17	0	0	17
神戸大学	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	H23	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
		H24	6	6	6	0	0	6	8	8	8	0	0	8
		H25	9	9	9	0	0	9	10	10	10	0	0	10
		H26	11	11	11	0	0	5	10	10	10	0	0	10
岡山大学	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	H23	19	9	9	0	0	14	12	12	0	0	12	12
		H24	81	23	11	0	12	68	33	23	11	0	12	33
		H25	79	32	10	0	22	79	86	41	19	0	22	86
		H26	96	32	10	0	22	96	52	52	21	1	30	52
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	H23	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	20	
		H24	27	16	6	0	10	16	66	6	6	0	0	66
		H25	59	10	10	0	0	10	76	19	9	0	10	62
		H26	105	46	12	0	34	56	33	13	10	0	3	33
立命館大学	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	H23	16	16	0	0	16	16	0	0	0	0	0	
		H24	70	28	9	3	16	70	74	39	0	0	39	74
		H25	66	40	15	5	20	31	51	20	20	0	0	51
		H26	43	32	10	22	0	42	53	20	20	0	0	50
計		1,171	502	279	39	184	777	994	525	324	1	200	841	
派遣・受入学生数に対する割合(%)			42.9	23.8	3.3	15.7	66.4		52.8	32.6	0.1	20.1	84.6	

※ 日中韓の交流学生数のみを記載。